

伝染性紅斑（りんご病）

2007.08.02

心配された麻しんの流行も、現在のところ函館地区では散発的で終わったようです。まだまだ日本全国で発症が報告されていますので、帰省の時期と重なって、今後も注意が必要です。天候が不順だったためか、7月の終わりにも喘息の発作を訴えるお子さんがいるなど、夏休み中で閑散な外来ですが、注意が必要なお子さんはずいぶんいるようです。

4月の中旬ころから、全国的に伝染性紅斑（りんご病）が流行しています。この病気は、ヒトパルボウイルスB19というウイルスによって起こる病気です。函館とその周辺では例年小規模の流行は見られておりました。平成9年、14年、15年は大流行でしたが、今年はすでに大流行の年を越えるくらいの勢いで流行しています。

症状は、頬の発赤（頬がりんごの様に見えることからりんご病という別名になったようです）、手足の赤みのある発疹（かゆみを伴うことが多いです）で、まれに体にも発疹が出る場合があります。その多くは何も治療せずに1週間程度で消えてしまうことが多いようです。典型的には頬と手足の発赤が出るというものですが、手足だけの発疹だったり、まったく症状が出なくて抵抗力だけが出来てしまうという不顕性感染もたくさんあるとされており、症状が出ていないお子さんにも感染している可能性は充分あるものと思います。

発赤、発疹が出るころには体にはもうウイルスが残っていないことが知られており、頬の発赤を理由にして登園登校が制限されることは基本的にありません。

大人の方はこどものころに罹っていることが多く、症状を出すことは余りありませんが、ごくまれに罹る方がいるようです。倦怠感が強かったり、関節が痛くて歩けなくなったりなど、こどもの症状と比べると強い症状が出るが多いです。

心配なのは妊娠をしているご婦人がかかると、流産の原因となる場合がありますので、不用意にこどもが多く集まる場所に出歩かないようにしてください。